

令和7年7月

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立牛牧小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立牛牧小学校	https://edu-mizuho.com/ushiki/page-2211/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立牛牧小学校	https://edu-mizuho.com/ushiki/20250128_3019/	https://edu-mizuho.com/ushiki/20250128_3019/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

特になし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は以前より外国籍の児童が各学級4～5人ほど在籍している。どの国の児童にとっても共通のコミュニケーションをとることができると言われる英語を低学年の段階で導入することで、国や文化が違っていてもお互いのよさを受け入れる人間関係づくりにもつながっている。また、多くの児童が外国語の授業を楽しみにしており、大変意欲的に参加できていることが一番の成果である。授業において、ALTと共に授業改善を行っている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

低学年から英語に慣れ親しむ活動を通して、中学年への接続が円滑にできている。また、既習の学習内容を基に、新たに学ぶ単語や表現を積極的に使用し、授業において学級の仲間とコミュニケーションを図ることができる。一方で、意欲は感じられるが新たに学ぶ単語が覚えられずコミュニケーションに自信のない児童がいる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度につづき、今後も、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指して、児童がALTと積極的に関わりコミュニケーションを図ったり、教職員も共に英語に慣れ親しんだりすることを大切にしながら、授業参観や研修等を実施し、保護者や地域にも本校の取組に関わる情報を公開していくことが必要である。